

招待席

# 金沢おでん

高野義裕

金沢はおでん屋の多い街  
全国一と旅の風土記に載っている  
具の香箱ガニが名物だ  
バイ貝と車麩と真夜中に取るとい  
飲むのは辛口地酒の大吟醸  
雪もよいかじかむ夜に  
それはさぞかしようまかろう

金沢の人と出会ってみたい  
なろうことなら詩人がいい  
ひっそりと書いている無名のひと  
詩はおのがじし独りで生きる夢  
想の切り札だ

ことばは再生のタッチストーン  
芭蕉も命賭けて詠んだあら海銀河

古称ゆかしい越の国

どっさりの雪じゆんたくの雨

食も情も暮らしの姿勢も

シベリアからの厳しい風に蹂めされて

北陸の品はいい艶が出るだろう

まちがつてはいけない

為政者の悪口をおでんの皿に盛るのなら

詩の灯は消える

熱爛へ手取川も不味くなる

あなたが育った国の話を聞かせてください

風物詩へ雪吊りの粹なわざ

まだ残る逝きし加賀の裏町風情

文豪碑なぞうつちやつて

カニとり漁師や花街芸妓さんのことどもを。

空から謡が降るといふ土地柄ゆえに

弥陀白山に魄をあずけて

いんぎらあつと生きる庶民の思い

ふいにあなたは言うかもしれない

「あなたの詩もみせてください」

これは冷や水おっしやるとおり

旅情も詩も酔いは禁物  
きちんと問にこたえたい

ほんとうにあなたに会えるなら

百万石の影も知っていたい  
一向一揆と藩主の毒殺未遂

はじめに聞く幕末忠臣蔵

語られぬ藤内とは何か

どんな地にも戦いがあり

民が殺められ

たぐさんの日と雨の過客に現場はかき消え

血を吸った草や樹が残される

歴史家はその跡を見逃さないように

詩人も植生の声をひきつぐ役割がある

まだ見ぬ異郷の人よ

一期一会で出会っても

寒ブリ好きな酒精にやられて

人を詰り世を糾弾するな

お互いの訛りを大切に心に刻み

再会を約し

やがて気のおけない便りが叶うなら

それはこの世のすてきな民俗伝承だ

金沢びともわれわれ九州ものも  
凍える日のおでんのように  
凜として客を迎えたい

\*手取川―金沢の地酒。

いんぎらあつと―金沢弁。ゆったりと。  
藤内―加賀藩独自の呼称。被差別部落民。

略歴

1947年生れ  
「文学界」「海燕」に小説発表 詩集「岬」「ハイエナ」  
福岡県詩人賞  
2008年より 渡辺京二 石牟礼道子氏らの「道標」会員